

ことば・教育研究所活動実績報告書

令和4年8月1日～令和5年7月31日

令和5年9月29日
所長 佐川 祥予

本研究所は、研究代表者と3名の研究分担者（学内）によって設立された。1年目は、言語教育における言語観の変遷をテーマとして、文献の収集及び先行研究の調査・分析を行った。言語教育における言語観を主として扱い、その言語観の移り変わりを人文科学全体における思想潮流の中に位置づけ、特に言語哲学や教育哲学といったフィールドに焦点を当てた。また、本研究所の研究分担者の協力の下、言語教育従事者を対象とした下記セミナーを令和4年9月に実施した。

テーマ「コミュニケーションについて考える——言語活動によってつくられる私たちの世界」（全5回）

9/3 「ストーリーとしての現実世界」（佐川祥予、静岡大学）

9/8 「歴史の流れにみる言語観の変遷」（藤井基貴、静岡大学）

9/10 「ウィトゲンシュタインの「言語ゲーム」」（吉田寛、静岡大学）

9/17 「なぜ言語観の検討が必要なのか～日本語教育学の視点から～」（義永美央子、大阪大学）

9/18 「ことばを交わすこと、言葉、存在～ことば学は言語教育に何を教えているか～」（西口光一、広島大学）

他大学・他分野の教員と連携するかたちで実施した。哲学、教育学、言語哲学、日本語教育学などの視点から、コミュニケーションを考えるという企画であった。参加者の様子からは、この分野への関心の高さがうかがえた。

また、所長の佐川は、職場における異文化コミュニケーションをテーマに海外で調査を行っており、そこで得られた成果を、第96回日本社会学会大会（2023年10月9日）にて報告予定である。